

行財政改革の現状について

三豊市長

横山忠始

合併後2年を経過し、その間の、行財政改革推進委員会や市議会の行財政改革調査特別委員会の審議結果に沿って集中的に実施してきました三豊市の行財政改革について、市民の皆さまに経過をご報告します。

合併時の財政は 切迫した状態にありました

三豊市の合併は、以前そのままでは財政的に苦しい7つの町が集まって1つにまとまることで行財政改革を進め、やって行けるようにすることが、大きな目的のひとつでした。

事実、合併後の一般会計の補正後予算額は284億円、起債残高、いわゆる借金は306億円、財政調整基金、いわゆる貯金は18億円でしたので、新しいまちづくりをはじめするには困難な状況にありました。

2年間で30億円の予算縮小

合併後15年間は、合併特例があります。まず当初の10年間は、人口7万人、面積222km²の三豊市として

ではなく、旧7町として配分される予定だった地方交付税をいただけ、その後の5年間は、毎年減少して、三豊市としての交付税に縮小していくというのが国の方針です。

そこで、私たちはまず中期財政計画を策定しました。その結果として、合併10年後の平成27年度には、一般会計予算規模は230億円にしないとやっていけないことが分かりました。合併したときより54億円もの縮小を図らなければなりません。最初に思い切った圧縮をし、その後徐々に縮小して10年後に向かう方針を立て、今年度は254億円の一般会計予算で臨んでおります。2年間の努力で予算額は30億円の縮小、借金も306億円から291億円に縮小、逆に基金は18億円から54億円に増やすことができました。

この最大の要因は、ご迷惑をおかけしましたが市役所の建設を見送ったことが大きかったと考えています。

人件費は年間約5億円を 削減しました

職員数は合併時955人から平成19年度末には854人と約100人の減員を図り、人件費も年間で4億8,800万円縮小しました。

また、職員給与については、まず人件費を削減しつつ、旧7町の給与体系を統一するべく、これまで適用していた8等級制の給料表を新6等級制に改正し、いわゆる頭を抑えて給料の総支給額の縮小を図りました。

この結果、45歳位からは当分給与が上がらないということになり、職員には大変厳しいものになっていま

すが、今日の社会情勢の中では、これもあつてしかるべきと考えています。

行財政改革の現状

予 算	平成18年度9月補正後 284億円	→	平成20年度当初 254億円	→	平成27年度 230億円	を目指す
基 金	合併時 18億2千万円	→	平成19年度末 54億5千万円			
職員数	合併時 955人	→	平成19年度末 854人			
人件費	4億8,800万円の削減					

子どもたちへの

医療福祉が充実

「旧町時代に行われていたサービ
スが窮屈になったじゃないか」とい
うご批判もいただいています。一
方では、他の市は6歳までとなつて
いる子どもの医療費無料化を、三豊
市は9歳までとし、さらに現物支給
とする努力もしています。

とにかく、子や孫のためというこ
とを心がけつつ行財政改革を進めて
います。



子どもたちの未来のためにさらなる行財政改革を

広大な工業団地は

すべて売却できました

原下工業団地のように市が広大な
土地を所有し続けることは、今日、
土地価格が下落を続ける中で、資産
価値は減少し、さらに、金利の上昇
が予想される中で、無用の利息支払
いが膨らむという借金の悪循環に入
る恐れがありました。

しかし、鳥坂工業団地そして最大
の懸案であった原下工業団地と、三
豊市土地開発公社が引き継いだ広大
な土地は順次売却することができま
した。これで合併時に懸念された大
きな案件は、一段落したと思いま
す。

実勢価格に評価替えを行った原下
工業団地も、このまま多額の利息だ
けを払い続けるより、税収をはじめ
新しい雇用による数億円にのぼる経
済効果で、中長期的には利益に転換
できるものとなったと考えます。

また、国から示されている財政指
標の連結実質赤字比率も将来負担比
率も良好で問題はなく、2年間で一
定の行財政改革の成果は生み出した
と考えます。しかし、まだまだ自己
財源の余裕を示す財政力指数は下

位にありますので、油断することなく、
自主財源の確保に努めなければなり
ません。



三豊市土地開発公社が引き継いだ広大な土地は
すべて売却しました（写真は原下工業団地）

わたしたちの

新しいふるさと三豊市

市民の皆さまのご協力で、私たち
は2年間で立ち上がることができ
て思っています。

今般の9月市議会定例会におい
て、新しい指標となる「新総合計
画」が合意されました。今後はこれ
をもとに、基金を有効利用しなが

ら、いよいよ三豊市としてのまちづ
くりに向かって歩き始めます。

ここからは何より市民お一人おひ
とりの三豊市全体を愛する気持ち
を、まずお願いしなければなりません。
『三豊はひとつ』つまり、自分
の住む町以外は「よそ」の出来事では
なく、三豊市内の出来事はすべて
「うち」の出来事で、ライバルは隣
町ではなく、丸亀市や観音寺市や善
通寺市です。新しいふるさと三豊市
すべてを愛し、自分のふるさととし
て応援していただける気持ちが不可
欠です。

2年間で行財政改革、借金の縮
小、基金の拡大を図ることができ、
利子払いをしていた広大な土地も新
しい収入源へと生まれ変わりました
が、まだまだ合併特例がなくなる日
まで行財政改革は続きます。

しかし、私たちは確実に新しいま
ちづくり路線に乗りました。あと
は、私たちの気持ちの持ち方ひとつ
で、必ず、すばらしい三豊市になる
と確信します。

今後もちづくりの格段のご尽力
を賜りますようお願い申し上げます。行
財政改革の現状報告とします。
文章中の数字は概算です。